

平成 29 年度高知医療センター・高知県立大学合同災害訓練実施要項 (Ver.20171027)

～ 受傷者・避難者誘導、軽症者受け入れ、避難住民支援、食料等対応 ～

1. 訓練の目的

医療センターが基幹災害拠点病院としての機能を果たせるように、医療センターに来院した軽症者と避難者を高知県立大学(避難所)が受け入れる。また、災害発生時に医療センター内にいる帰宅困難者(外来患者、面会者、業者等)のうち、医療センターから受け入れ要請のあったものを避難所で収容する。昨年に引き続き、以上を通して災害時の課題を抽出・分析し、災害対応マニュアル等の基礎データとする。

尚、これにあわせ、医療センターおよび県立大学にて、それぞれの独自の訓練を加える。県立大学では、発災に合わせて避難訓練を実施する。また、医療センターとの合同災害訓練により受入れた軽傷者や帰宅困難者等の他、地域の住民の受け入れも行い、それらも含めた避難所運営の訓練を行なう。これには、食料等対応の訓練も含める。

2. 日時 平成 29 年 11 月 5 日(日) 8 時～12 時 30 分(非常食の試食終了までを訓練とする)

3. 場所 高知県立大学池キャンパス
〈受傷者・避難者誘導チーム〉 トリアージゾーン1の交差点・大学南歩道・学生会館南西交差点・副門1・建物内等
〈軽症者受け入れチーム〉 体育館1F・体育館2F・看護学部棟地下駐車場
〈避難住民支援チーム〉 体育館、その他
〈食料等対応チーム〉 体育館、駐輪場、その他
〈学生ボランティアセンター運営チーム〉 本部棟1F、体育館、その他

4. 参加者 県立大学 350 名程度 : 教職員 100 名程度、学生 294 名程度
傷病者・家族役 : 80 名(赤 : 10 名、黄 20 名、緑 : 50 名)
外来患者・家族役 : 68 名(外来患者 48 名、家族 : 20 名)
避難者役 67 名
学内で活動する者 : 100 名程度 + 学生ボランティア 92
・救護所運営 : 看護学部、「健援隊」
・避難所運営 : 社会福祉学部、学生ボランティア
・炊きだし : 健康栄養学部、学生ボランティア
・池自治会避難所運営 : 池町内会・望海ヶ丘地区会の方々「いけいけサロン活動」
・災害学生ボランティアセンター運営 : イケあい地域災害学生ボランティアセンター

5. 通信手段の設定

- ・学内のトランシーバーのチャンネルは、**CH2**
- ・軽症者エリアのトランシーバーのチャンネルは、**CH5**

- ・医療センターとのトランシーバーのチャンネルは、**CH9（混信した場合など、臨機応変に対応）**
- ・高知医療センター災害対策本部：PHS 6220、6221
- ・現場指揮本部：PHS 6222
- ・県立大学災害対策本部：PHS **7993**
- ・学生災害ボランティアセンター本部：内線6110（玄関カウンター）
- ・炊きだし：内線6104（試食室1）
- ・避難所運営本部：内線4301（体育館放送控室）

6. 訓練実行委員長

山田 覚

7. 訓練想定

11月2日（平日）午前8:45地震発生、9時25分高知県沿岸に津波到達。相当数の傷病者が発生

〈発災直後、初動〉

- ・平日正課開講中で学生教職員が多数学内にいる。
- ・学生教職員は、ただちに最寄り「津波一次避難場所」に避難する。
- ・避難してきた、学外者も2F以上へ避難する。避難誘導はなし。
- ・教職員が中心となって、各棟の避難者を点呼、災害対策本部にトランシーバーで知らせる。
- ・災害対策本部の立ち上げと同時に、学内避難者状況の把握。
- ・停電により、照明はつかない

〈医療センター〉

- ・平日日勤帯で外来患者がいる
- ・病院建物と周辺道路の津波浸水は免れた
- ・電源使用可能：停電により非常電源作動
- ・携帯電話、一般電話回線は使用不可
- ・使用可能：院内 PHS、衛星携帯電話、行政防災無線、その他設置してある無線

〈高知県立大学〉

- ・軽症者エリアは、発電機により照明を確保するが、安全のため一部は照明を点灯する。
- ・津波の状況を高層階から見張る担当者（施設要員）からの報告を受け、携帯ラジオで地震情報・震度情報・津波情報を受信・報告し、「約6時間後」に、本部長が「津波警報解除を確認」し、そして「医療センターと池キャンパスの地面レベルの津波浸水を免れた」ことを確認してから、軽症者等の受け入れ決定する。

発災後、6時間程度は(大津波警報)掛かるものと思われるが、訓練では早回しで約1時間掛けて上記訓練を行うこととする。

8. 訓練内容 南海地震発災後の災害対応訓練

（受傷者・避難者誘導、軽症者受け入れ（トリアージ+診療+搬送+物品補給）、避難者受け

入れ、炊き出し(非常食の試食)

8:45 に地震発生し、9:25 津波襲来 (想定されている浸水範囲に留まる)

8:45～災害訓練開始、避難訓練(一部)、学舎被害調査(訓練)開始

9:45 頃～軽症者受け入れ・避難者受け入れ、ボランティアセンター開設決定

軽症者、避難者の来学、ボランティア希望者来学

主な訓練

- (1) 学生・教職員避難訓練
- (2) 軽症者エリア・避難所開設、誘導訓練
- (3) 避難所運営支援訓練
- (4) 避難者・職員に対する炊き出し(非常食の試食)訓練
- (5) ボランティアセンター運営訓練

11:00～12:00 炊きだし(非常食)試食

11:30～12:15 全体反省会 (高知医療センターくろしおホール)

9. 訓練全体のタイムスケジュール

8:00までに 傷病者役教職員、傷病者役学生は次ページに示す本部棟3F で受付(担当者小澤、未定)各自掲示された受付表を確認して、いったんA306に集合。

避難者役ボランティア希望学生は、本部棟3階A318に集合。

外来患者役教職員、学生は、高知医療センター2F 21番受付周辺に集合(担当者内川、未定)医療センターの玄関から左手奥のエスカレーターを上がってすぐ)

8:00 <傷病者役割>

避難訓練とその後の各運営訓練、スケジュールの説明 《山田、竹崎》

全体説明の後、傷病者役教職員は、それぞれ傷病者設定の部屋に移動する。

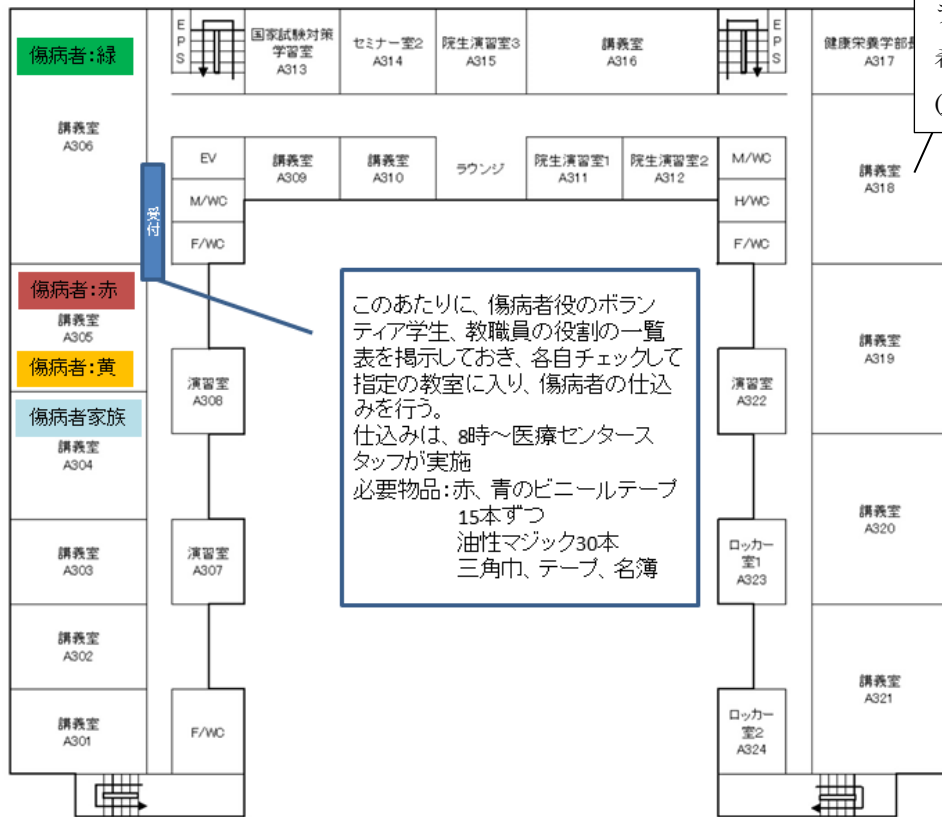
傷病者の仕込み開始(県立大学本部棟3FA304~306):医療センターの医師、看護師が行う。

(物品:マジック30本、ビニールテープ(赤、青)15本ずつ、はさみ15本、三角巾、ベビー人形、こどもの人形、名簿)

集合場所:傷病者設定の家族単位で集合していただく予定



3F 本部・健康栄養学部棟



避難者役ボランティア希望学生 (A318)

このあたりに、傷病者役のボランティア学生、教職員の役割の一覧表を掲示しておき、各自チェックして指定の教室に入り、傷病者の仕込みを行う。
仕込みは、8時～医療センタースタッフが実施
必要物品：赤、青のビニールテープ 15本ずつ
油性マジック30本
三角巾、テープ、名簿

8 : 4 5 地震発生学内放送 《 中村 》

- 緊急地震速報を流し、地震発生の館内放送を行う。(2回繰り返す。)
- 「これは訓練です。これは訓練です。大きな地震が発生しました。」(2回繰り返した後、地震効果音100秒)

一次避難場所への避難と点呼

- 各棟一次避難場所で、教員が避難学生・教職員の点呼、本部報告
- 点呼集約：情報収集担当（総務課、教育研究戦略課）(A316 教室前方)
- 災害対策本部立ち上げ・設営：総務企画部・財務施設部 (A316)
- 津波の状況を高層階から見張る担当者(施設要員)からの報告

※ 点呼・報告が終わったところから、

傷病者役は指示に従い、医療センターに移動 (9時20分頃から順に)

ボランティア希望学生は、本部棟1F ボランティアセンターで受付をする。

学生教職員安否確認システムの発信

- 発信は、学生支援部及び総務企画部が連携して行う。

あとで参集した教員はどこに行けばいいですか??

9 : 0 0 ボランティアセンター開設決定、受け入れ開始

- ボランティア受付→登録→活動内容決定→活動オリエンテーション
→ (活動) →活動終了→活動報告 等々、一連の対応

9 : 3 0 大津波警報解除

- 学舎点検、被災状況の確認、本部への報告（施設担当、避難誘導担当）
- 携帯ラジオで地震情報・震度情報・津波情報を受信・報告

<想定ではあっても>

- 本部では、「約 6 時間後」責任者が「津波警報解除を確認」また
「医療センターと池キャンパスの地面レベルの津波浸水を免れた」ことを確認してか
ら、受け入れ決定する。

（想定にしても「津波情報の確認」なしに、自動的に決定しない）

以上は、6 時間程度掛かるものと思われるが、早回しで約 1 時間掛けて上記訓練を行う
こととする。

軽症者・避難者受け入れの決定

誘導配置（県立大学側交差点等 5 カ所）

軽症者受け入れ 設営開始 → 準備が整えば本部に連絡
→本部より医療センターへ受け入れOKの連絡

（連絡は、トランシーバー《交信チャンネル CH9》もしくは災害用院内 PHS 《7
9 9 3》を使用する）

避難者受け入れ 設営開始
（炊き出し(非常食試食)準備)

受け入れ開始

- 医療センターからの来学者は西側二輪用副門まで誘導
- 二輪用副門付近で、避難者と要治療者（要確認者）受傷者を振り分け
（治療等対応：トリアージタグ+避難者カード
付き添いや見舞いで元気な方：避難者カードのみ

医療センターでトリアージ、治療済みかはカードに記載される。）ただし、無意識に

トリアージ 済	
県立大で要治療	治療必要無し
氏名 【	】
住所 【	】
電話 【	】

外している人や、意図的に外している人など、いろいろなケースが想定されるので、状態の確認が必要
状況によって、受付エリアから看護職を配置できるようにする。

- 体育館に「け

がない住民」「医療センターでトリアージ済、治療不要」と想定された参加者が避難

- 傷病者は、副門 1 から看護学部棟 B1 階入り口より、体育館 2 階に誘導
- 「救護所で治療を受けた住民」役教職員/学生は体育館 1 階に誘導
- 傷病者・避難者がとぎれるまで（または 11 : 00 まで）継続
- 順次、各エリアで受け入れ 時間毎(30 分毎)に災害対策本部に報告、医療センター
災対本部と情報共有

1 1 : 0 0 食料対応チーム以外各エリアでの訓練終了、反省会(各エリア)、適宜撤収、非常食試食訓練

1 1 : 0 0 適宜炊きだし(非常食)試食開始

1 1 : 3 0 - 1 2 : 1 5 全体反省会（高知医療センター くろしおホール）

10. 本部体制と主な役割

高知県立大学災害対策本部（池本部棟 A316） 30名（うち永国寺2名）

役割	活動内容	担当役職・課名	担当者名等
1)本部長	災害対策本部の統括	学長	野嶋 佐由美
2)副本部長	本部長の補佐	副学長	五百蔵 高浩
3)本部統括 (指揮班)	本部機能の維持 配備体制の決定・周知 対応の指示	事務局長 (補佐：事務局次長 本部長支援)	岡村 昭一 浅野 尊子 田村 架菜
4)情報収集統括 5)広報・渉外統括 (情報収集連絡 班)	情報の収集と学内周知 渉外、広報、報道対応 永国寺連絡及び大学内避難・被災状況集約	事務局次長 (総務課、教育研究戦略課、企画連携課、図書情報部)	浅野 尊子 情報収集要員 (竹内、永吉、原田、公文) ・板書係(中村、野村) 広報・渉外(勝賀瀬)
6)避難誘導統括 (避難誘導班)	避難者の避難誘導、避難状況の把握 建物内残留者の確認	教務支援部長 (教務課、入試課、総務課、国際交流課、学生・就職支援課職員)	大崎 俊道 避難誘導対応(荻、難波)
安否確認 7)学生統括	学生、教職員の安否確認 学生の安否確認・集計、学生対応	学生部長 学生支援部長 看護学研究科長 人間生活学研究科長	森下 安子 柏木 理男 ・学生対応(土江) 藤田 佐和 杉原 俊二
8)教職員統括	教職員の安否確認・集計、教職員対応	総務企画部長	楠瀬 美加 教職員対応(宮田、松岡)
9)施設・警備統括 (安全防護班)	学内の被災状況の把握	財務施設部長 (財務施設課)	松田 由紀 施設・警備対応(山下)
9)-1 避難所統括	避難所の運営	社会福祉学部長 (避難所統括者)	宮上 多加子
9)-2 軽症者エリア (救護所) 統括	医療センターとの軽症者エリアの運営	看護学部長 (軽症者エリア統括者)	中野 綾美
9)-3 食料等統括	食料等に関する物資の管理	健康栄養学部長 (食料等統括者)	村上 尚
永国寺キャンパス	法人災害対策本部県大統括 県大災害対策支部統括	学長特別補佐 文化学部長	清原 泰治 岩倉 秀樹

1) 本部の役割（今回の訓練では、下記「3）タイムスケジュール」で示した範囲とする）

・ 点呼・確認

初動の避難状況集約については、情報収集担当がトランシーバーで避難場所からの連絡を受け、板書係りと協力して、集約用紙に記入、集約する。

結果（一次報告；避難者数のみ）の報告

・ 災害対策本部の設営

上記点呼集約を情報収集担当（教育研究戦略課、総務課等）が行っている間に、総務課及び財務施設課は機材搬入、机配置、必要物品配布を行い、本部を設営・整備する。

・ 各棟の最終確認の報告

避難誘導担当及び施設担当が手分けして各棟の被害状況を点検し、最終確認を本部に口頭報告する。

この集約は、情報収集統括（次長）が行い、局長に報告。局長は、集計状況を学長に報告する。

・ 安否確認システムによる学生および教職員の安否確認

学長の指示により、学生および教職員全員の安否確認を行う。

学生統括（学生部長・学生支援部長）は、『学生・教職員安否確認システム』を稼働するように指示し、担当者は、安否確認用のノートPCを自家発電装置に繋げてシステムを立ち上げ、発信する（教職員への発信については、総務課担当と連携して行う）。

・ 安否確認の報告

学生部長は、適宜、安否確認の返信状況を報告する。

・ 軽症者・避難者受け入れの決定

・ ボランティアセンター開設決定

・ 配備体制の決定と周知

・ 情報の集約（被災状況、参集者、避難者(受付者、未受付者の状況)、軽症者(受付者、未受付者の状況)

・ 対応に関する意思決定、対応の指示

・ 外部支援の受け入れ（医療センター医療救護班、等）

・ 避難所の収容能力の把握

・ 人員配置（それぞれのエリアでの教職員の参集状況の確認）

・ 学内の被災状況の把握(警報解除後直ちに実施: 今回は緊急地震速報後直ちに実施)

・ 情報の学内周知

・ 衣食住に関する物資の管理

・ 広報：報道対応、記録（情報の集約、トランシーバー連絡）

・ 本部支援要員：本部機能を支援する。

*各部署から発信された情報を時系列に整理し、情報を必要とする本部要員に伝える。

*時間ごとに軽症者エリア、避難所受付、炊き出しの部門を回り、本部に伝える情報を得て、本部に伝達する。

・ 高知県立大学永国寺キャンパス災害対策支部と永国寺キャンパスの被災状況に関して MCA 無線機にて情報収集する。

・ 永国寺キャンパスの法人本部に、高知県立大学池キャンパスの被災状況を報告する。

2) 必要物品

MCA無線、トランシーバー、パソコン3台(安否確認用2、TV用1)、プロジェクター、ラジオ、コピー機、テーブルタップ(3~5本)、電源コードリール×3、ホワイトボード(備え付け)、ホワイトボード紙(簡易貼り付け式)、ホワイトボードマーカー、メガホン、連絡先名簿(行政機関、医療機関、学生、教職員)机、椅子、名札立て、時計、ガムテープ、筆記用具(ボールペン(黒、赤数本)、コピー用紙)

3) タイムスケジュール(今回の訓練)

- 8:45
- ・地震の揺れの状況により、本部を立ち上げる。
 - ・揺れがおさまったら、本部要員は本部棟3階第A316講義室に集合。
 - ・学長は災害対策本部を立ち上げる旨宣言し、災害対策本部長となる。
本部設営：総務企画部・財務施設部
- 本部立ち上げ時は混乱するので、一次避難者の点呼集約と、災害対策本部立ち上げ・設営は、発災直後は以下の通りの役割分担とする。
- 点呼集約：情報収集担当(総務課、教育研究戦略課)(A316教室後前方)
 - 災害対策本部立ち上げ・設営：総務企画部・財務施設部
- ・学生および教職員の安否確認を行う。
点呼報告のとりまとめ：学内情報収集担当(主に教育研究戦略課)
 - ・受傷者・避難者誘導チーム(大崎)、避難住民支援チーム(長澤、中畷)、軽症者受け入れチーム(DNGL院生佐々木・井上正)、食料等対応チーム(廣内)、ボランティアセンター(〇〇)の責任者は、トランシーバーを受け取りに、本部棟3階第A316講義室に集合し、トランシーバー貸し出し簿に氏名を記入する。
 - ・本部長(学長)は、本部統括(局長)に、学内の被害状況の確認を指示する。
 - ・本部統括は、施設統括に指示し、学内の被害状況を報告させる。
 - ① 職員、学生の状況 → 今回の訓練では、避難状況の確認を行う(傷病者役割、ボランティア希望者役割の学生等に対して、各棟で集約、本部報告)。
 - ② 建物の被災状況
 - ③ ライフラインの状況(電気、ガス、水、空調、通信、その他)
 - ④ 周辺の道路状況
 - ・災害対策本部は、被災状況の報告を受ける。
 - ・被災状況と参集者の報告を受け、災害対策本部にて協議し、軽傷者受入れが可能かどうかを、本部長が判断する。
 - ・軽症者受け入れチーム(トランシーバー交信チャンネルCH2、(内線:4302、4303))に、軽傷者の受入れを指示する。
- 9:00
- ・学長は、ボランティアセンターの立ち上げを宣言し、ボランティアセンター責任者(〇〇)はじめ、各チームの責任者に伝える。
- 9:45
- ・軽傷者受入れが可能であると判断した場合、その旨医療センターの災害対策本部へ連絡する。(連絡は、トランシーバー《交信チャンネルCH9》もしくは災害用院内PHS《6220、6221》を使用する)
 - ・軽症者受け入れチーム、受傷者・避難者誘導チーム、避難住民支援チームおよび食料等対応

チームに、軽傷者受入れ可能であることを医療センターに伝えた旨、連絡する。

- ～11:00 ・各部署から時間ごとに報告を受け、状況を把握し、対応に関する指示を出す。
本部要員（情報収集要員）は、各部署から発信された情報を時系列に整理し、情報を必要とする本部の各要員に伝える。軽症者エリア、避難所受付、ボランティアセンター、食料等対応の各チームを回り、本部に伝える情報を得て、本部に伝達する。（本部長あるいは副本部長、各統括者）
外部支援に関する連絡を受け、必要な対応（誘導、人員配置等）を行う。
- 11:00 ・各チームに食料対応チーム以外の訓練が終了した旨、知らせる。
・食料対応チーム以外評価、反省会（終了後撤収し、非常食試食訓練へ）。
- ～11:15 評価、反省会（終了後撤収）、非常食試食訓練へ。
非常食配布開始

11. 避難住民支援チーム

(1) 今年度の避難所訓練の目標

- | | |
|---|---|
| ① | （医療センターを経由せず）大学に直接避難してくる避難住民の役割を設定（健康栄養学部生3回生 <u>28名</u> ＋社会福祉学部生1回生約 <u>30名</u> ）
※避難住民の学生の一部は、避難後にボラセンに登録して支援者役割へ移行する。
※避難住民や傷病者役割の学生に対し、避難後の待機時間に研修を実施（西川、神原が担当） |
| ② | 軽傷者看護エリア（看護学部）、栄養アセスメント（健康栄養学部）との連携、情報共有 |
| ③ | 学外より、実際の地域住民（池住民（いけいけサロンが対応）・望海ヶ丘住民、外国人、障害者）が参加。それぞれの対応にあたっての課題を明らかにする。 |

(2) 合同災害訓練教員の役割 計14名（◎は部署の責任者）

本部	宮上学部長	（本部と避難所との連絡・指示）
【避難所訓練統括】	長澤	※避難所支援の役割には入らない

以下、避難所運営支援役割（役割は時間の経過により変更すること有り）

- ① 避難所運営統括 中畠◎ 統括補佐 西内
※全体総括、各部署から報告を受け本部に伝達、避難者のデータ管理
- ② 受付 上田◎・稲垣、玉利＋学生2～3名
※名簿に記載、エリアへ配置、ヒアリングシートやアンケートを配布
- ③ 健康相談 三好◎・片岡・DNGL 院生西川（看護学部との連携）
※要配慮者に関する相談対応、軽傷者チームへ送致
- ④ 要配慮者エリア 河内◎・遠山
※要配慮者へのアセスメント、心理社会的支援
- ⑤ 居住エリア 鈴木（孝）◎・雑賀・鳩間
※避難住民役、傷病者役の学生の受入

(3)タイムスケジュール

8:00 学部防災委員（長澤・中畠・河内・上田）は体育館に集合
避難住民、傷病者等の役割の学生は、各集合場所に集合

8:30 他の教員は、体育館集合
設営の準備

- ・全ての扉を開放，カーテンを手動で開ける(停電想定のための採光)
- ・受付設置（長机に受付名簿、筆記用具，ホワイトボード，アンケート及び回収箱の設置）
- ・体育館入口の動線の確保，スリッパと靴入れ袋の準備
- ・エリアごと（要配慮者，居住者等）の掲示と線引き，準備

8:45 地震発生，訓練開始

8:45～ 大学に集合した学生は学内避難訓練の開始
避難した教室で安否確認後，各自避難所運営訓練へ

9:30 過ぎ～ 避難所運営訓練開始

9:45～10時頃 避難住民役の学生，学外からの住民，外国人，障害者の受入
医療センターからの傷病者（処置済・トリアージ青タグ患者等）役学生を受入

【避難所での対応】

- ・受付で名簿記入とヒアリングシート、アンケートの配布（原則避難者自身が記入、難しい場合にはスタッフによる聞き取り）
- ・要配慮者の発見と相談対応、軽傷者エリアに送致
- ・避難者への心理社会的支援
- ・看護学部、健康栄養学部との連携
- ・空き時間に災害に関する備えを学ぶ研修を実施

11:00 訓練終了，30分程度反省会【各々の部署で課題を出してもらおう】
各自炊き出しの試食，アンケート提出（12時頃に終了）

12. 軽症者受け入れチーム

1) 軽症者受け入れチーム 責任者 DNGL 院生佐々木・井上正（エリア統括）、●●（軽症者マネジメン
トリーダー）

連絡係（ 健援隊 ）、記録（ 健援隊 ）、メッセージャー（ 健援隊 ）

災害発生時を考えて、はじめから全てのエリアを開設せず、ミニマムの開設（（受付＋軽症者待機）→診療）
→収容）と徐々に機能を分ける。当日集まった人員で運営する。定期的に休憩が取れるようにする。
必要な人員については、本部に要請する。

エリア名	役割	人数	備考
受付エリア リーダー：定めない	受付/情報集約	定めない	
	一次チェック（透析患者などの慢性疾患患者、妊婦など）	定めない	
軽症者待機エリア リーダー：定めない	二次トリアージと受傷起点確認して診療順位を決める	定めない	
診療エリア リーダー：定めない	診察介助、処置の実施、介助	定めない	
軽症者収容エリア： リーダー：定めない	経過観察、搬送が必要な患者の安定化	定めない	待機エリアと連携

2) タイムスケジュール

(8:45 発災) 前日までに設営

8:45 避難訓練参加

(避難訓練の流れで) 避難後軽症者エリアを運営できる人を確認

→ その場でリーダーとメンバーの決定 → 本部に報告

9時30分までに上記まで進まなければ、リーダーとメンバーを決めて、本部に報告する。

9:45 受け入れ開始

○ ○ 医療センターから医療救護班到着（医師2名、薬剤師2名、ロジスティック1名）

傷病者の状況に合わせて、訓練の実施、適宜報告

赤、黄の傷病者がいれば、ロジスティックスと連携して医療センター現場指揮所に搬送要請（PHS or トランシーバー）

軽症者は、対応後避難所へ移動

11:00 評価、反省会

11:15～医療センター反省会へ参加

非常食試食（医療センターに受入れられた傷病者も、県大で試食（要確認））

13. 受傷者・避難者誘導チーム

1) 誘導チーム配置・役割 責任者 大崎

配置	役割	人数	備考
避難経路 (A班)	軽症者・避難者について大学南舗道上を誘導	2	
避難経路 (B班)	軽症者・避難者を副門1へ誘導	2	
避難経路 (C班)	避難者を体育館へ誘導	2	
避難経路 (D班)	軽症者を看護学部棟B1入口へ誘導	3	
避難経路 (E班)	軽症者を体育館2階へ誘導 治療を受けた軽症者を避難所へ誘導	2	
		11	

2) タイムスケジュール

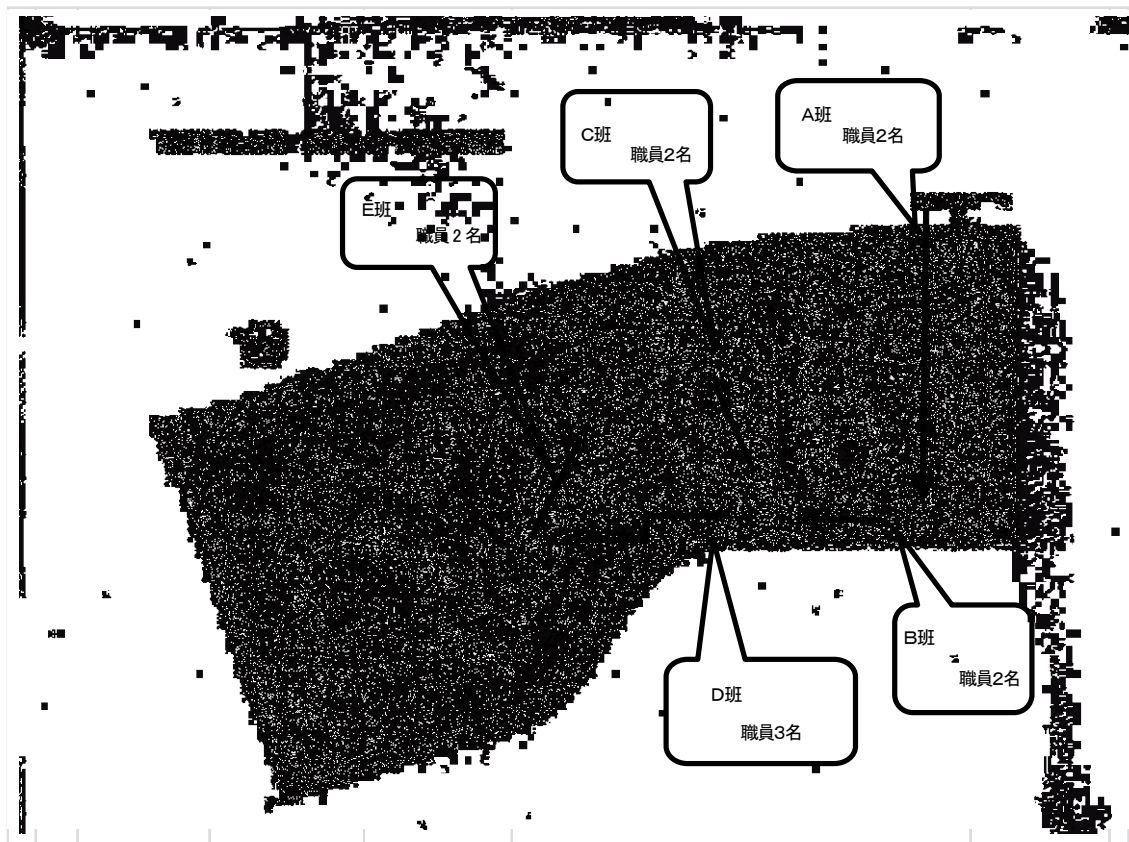
9:30 本部の指示を受け、避難経路に配置 (配置図参照)

9:45 軽症者・避難者誘導開始

軽症者：副門1～看護学部棟～体育館2階へ誘導

避難者：副門1～体育館へ誘導

11:00 評価、反省会、非常食試食



14. 食料等対応チーム

1) 参加者 ※下線は責任者, 役割は時間の経過により変更すること有り

食料対応チーム責任者	: 村上学部長 (本部から食料対応チームへの指示)
他部署との連携	: <u>廣内</u> , 隅田
巡回栄養・食生活相談	: 日本栄養士会災害支援チームリーダーとスタッフ研修受講者 <u>廣内</u> , 島田, 隅田, 高知県栄養士会
おにぎり	: 【準備】 <u>彼末</u> , 西岡, 鈴木, 川村, 学生 (多数) 【配食】 <u>彼末</u> , 学生 (若干名)
カロリーメイト	: <u>鈴木</u>
ビスケット	: <u>川村</u>
豚汁	: 【準備・配食】 <u>沼田</u> , 渡邊, 竹井, 田中, 小林, 学生 (若干名)
誘導	: <u>島田</u> , 西岡
カメラ (記録)	: <u>廣内</u> , 隅田,

2) 訓練内容

- ① 要配慮者の巡回栄養アセスメント
- ② アルコール手指消毒剤による衛生管理
- ③ 飲料水の提供
- ④ 備蓄食の提供
- ⑤ カロリーメイトの提供
- ⑥ ミレービスケットの提供
- ⑦ 豚汁の提供

3) タイムスケジュール

- 8:30 体育館集合
- 8:45 訓練開始, 地震発生 (避難訓練)
- 9:00 炊き出し準備開始
- 9:30 JDA-DAT 本学到着
- 10:00 巡回栄養・食生活相談開始
- 11:00 全体訓練終了 (巡回栄養・食生活相談終了), 炊き出し訓練開始
- 12:15 炊き出し訓練終了

15. ボランティアセンター立ち上げ・運営

平成 29 年度は実施予定

16. 池地区住民の避難訓練《川本、時長》

- 1) 当日の予定
 - 8:00 集合

- 学生・教員は一旦学内訓練に参加 → ボランティアセンターで受付
- 9:30 学生はボラセンを経てそれぞれの持ち場で活動
町内会住民受け入れ対応（来学者の避難誘導のサポート）
- 10:00 住民避難
体育館での避難所受け付け&模擬避難生活体験 …… 体育館で避難生活を体験
- 11:15 炊き出し配付へ誘導、解散
- *来学から解散まで、「いけいけサロン」メンバーがエスコートする
- *予定されているプログラム
- ▶住民が避難所に集まり次第、学生を中心に以下を運営する。教員は企画、実施、運営サポートを行う。
 - ・避難所体験コーナー
 - ・節水歯みがきコーナー
 - ・避難生活の工夫コーナー

17. 全体反省会

11:30~12:15 高知医療センター（高知医療センターくろしおホール）

18. 訓練担当者

- 1) 訓練全体の統括：山田、(竹崎)、長澤、大川
- 2) 池災害対策本部
災害対策本部
本部統括：事務局長
情報収集統括及び広報・渉外統括：次長
情報収集要員：竹内、永吉、原田、公文 広報・渉外要員：勝賀瀬
避難誘導統括：大崎
学生要員(学生安否確認)：柏木、土江
教職員要員：楠瀬、宮田
施設要員(ライフライン確認)：松田、山下
- 3) 永国寺災害対策支部
本部要員：清原、岩倉
本部機能の評価：大村
- 4) 放送係
地震発生時の学内放送：中村
- 5) 記録係
《県立大学広報の腕章または名札をつけて、医療センターの撮影も可》
ビデオ及びカメラによる撮影、記録：久野、由比
- 6) 避難者エリア
エリア責任者：中畠
 - (1) 誘導
誘導配置責任者：大崎（本部）
県立大学側交差点等5カ所に配置

- (2) 軽症者受け入れ（全体が開設できると下記となる予定）
 責任者：DNGL 院生佐々木・井上正 評価：医療センター田中、大川
 メッセンジャー2名 健援隊
 受付エリア：〇〇、他3名
 軽症者待機エリア：〇〇、他8名
 診療エリア：〇〇、池田、他4名
 軽症者収容エリア：〇〇、他4名
- (3) 避難住民訓練支援
 看護学部 川本、時長
 学生 いけいけサロン活動メンバー
- (4) 食支援
 責任者：廣内
- (5) 傷病者役対応
 責任者：内川、〇〇（医療センター外来）、小澤、〇〇（池本部棟3階）
- (6) 避難者役対応
 〇〇（社会福祉学部）、廣内（健康栄養学部）

19. 事前準備

〈全体〉

- (1) 訓練の周知
- ① 教員：教授会で、訓練参加について再度依頼
 - ② 学生：各学部でボランティア参加者募集中（10月25日現在294名 うち支援者107名）
 - ③ 職員：課内会及びメール等で、訓練参加について依頼済み
- (2) 準備物
- ✓ トランシーバー
 - ✓ 実習用 PHS1 台：医療センターとの連絡用に使用
 - ✓ 体育館靴用レジ袋：永国寺の訓練時使用のものを借用
 - ✓ 炊きだし（非常食試食）必要物品等の準備
 - ✓ 軽症者受け入れ用物品：ビブス、軍手、ブルーシート
 - ✓ その他、各部署にて確認中
 - ✓ 傷病者設定、外来患者設定、避難者設定の準備

〈軽症者受け入れチーム〉

- (1) 医療センターとの訓練内容に関する打ち合わせ
- (2) トランシーバーによる情報伝達訓練の実施
- (3) ボランティア担当教員との打ち合わせ

〈受傷者・避難者誘導チーム〉

配置表等により周知

〈池自治会等担当〉

- (1) 近隣自治会への協力依頼 …… 池町内会役員と打ち合わせ、望海ヶ丘地区会役員との打ち合わせ、チラシ配布済
- (2) 当日必要物品
池近隣のマップ、等

<ボランティアセンターチーム>

ボランティアセンター立ち上げ用品
ホワイトボード、等

20. その他

- ・ 訓練全体に関する調整が必要な場合は、高知医療センター西田医師、高知県立大学山田が携帯電話で連絡を取る。

《連絡用 PHS 番号》

県立大学災害対策本部：PHS 7993

高知医療センター災害対策本部：PHS 6220、6221

現場指揮本部：PHS 6222

以上